



第1回九州矯正歯科学会学術大会

プログラム・抄録集

会 期:2006年2月11日(土)・12日(日)

会 場:九州大学医学部百年講堂

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

TEL : 092-642-6030

九州矯正歯科学会会長

会 長 : 中島 昭彦

第1回九州矯正歯科学会学術大会

大会長 : 中島 昭彦

事務局長 : 名方 俊介

事務局 : 九州大学大学院歯学研究院 口腔保健推進学講座

目 次

学会長・大会長挨拶	1
交通案内図	2
大会運営について	3
会場案内図	6
大会日程	7
大会プログラム	8
抄録	
特別講演	13
シンポジウム	17
スタッフ&ドクター・セミナー	23
口演	25
学術展示	31
症例展示	52
症例報告	64
商社展示・広告協賛各社一覧	66

歯根破折歯に小臼歯を自家歯牙移植した Angle Class III 症例

ピュア矯正歯科室 (東京)

澤田 昌利

【症例】 37 歳 6 か月

【初診】 1999 年 8 月

【主訴】 食事中に前歯が折れた。

【所見】 正貌は左右対称、側貌は straight type でやや下唇の反転が認められた。口腔内は、上顎右側犬歯は欠損、上顎左側切歯と第一小臼歯は舌側転位、上下歯列は中等度の叢生状態であった。臼歯関係は両側 Angle Class III で、上顎歯列弓正中は顔面正中に対して右側に 3mm 偏位し、下顎歯列弓正中は上顎に対して右側へ 2mm 偏位していた。Overbite と Overjet は共に 1mm であった。上顎右側中切歯には歯根破折によると思われる強い動揺が認められた。セファロ所見においては、SNA 84.9°、SNB 81.7°、ANB 3.2°、FMA 39.6°、IMPA 81.9°、FMIA 58.5°、Gonial angle 128° で skeletal pattern は openbite 傾向の軽度の Class III であった。パノラマ X 線所見では、上顎右側中切歯に金属ポストが装着され、歯根の破折が確認された。

【診断】 歯根破折歯を伴う Angle Class III 叢生症例。

【治療方針】 叢生の除去と咬合の再構築を図るため、上顎右側を除く第一小臼歯 3 本と保存不可能な上顎右側中切歯の抜歯を行った。上顎右側中切歯は、抜歯と同時に下顎小臼歯の自家移植を行い、抜去歯の有効活用を試みた。

【治療経過】 移植した歯牙の経過観察中に、側方歯群のレベリングを開始。移植歯が良好のため、犬歯の部分的遠心移動後に、上顎前歯を含むリレベリングを行い、順次スペースクローズ、コーディネイトへと移行した。動的治療期間 24 か月、保定はポジションナーを選択した。動的治療終了後、3 年 8 か月経過しているが、咬合は安定しており、移植歯に関しても歯根の外部吸収や癒着は認められない。

【考察】 自家移植症例のため、移植部の経過が心配されたが、患者の理解と協力が得られ、良好な咬合を確立することができた。今後も、長期的に経過観察を行っていく予定である。